

# Malaysia ラブアン | IBFC 特集 ②



## 注目されるアジアの ビジネス金融センター

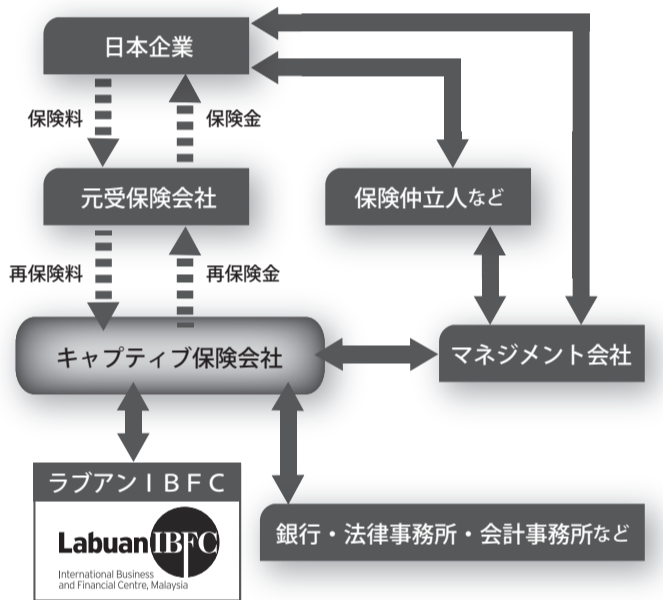
# キャプティブのつくり方

キャプティブ・ドミサイルとしてのラブアン | IBFCは、日本企業にとって立地やアクセスの良さ、コスト効率の高さに加え、設立に協力的な監督官庁やキャプティブ運営に必要なインフラ環境など、ビジネスのしやすさという点でメリットが大きい。今回は、キャプティブ設立のプロセスに焦点を当て、実際にラブアンでのキャプティブ立ち上げを支援している保険仲立人ジャパン・リスク・スペシャリスト(株)の荒木直義社長に、ラブアンでのキャプティブ設立の手順やポイント、ドミサイルとしての利便性などを聞いた。

### キャプティブのスキーム

キャプティブ・ドミサイルとしてのラブアン | IBFCは、日本企業にとって立地やアクセスの良さ、コスト効率の高さに加え、設立に協力的な監督官庁やキャプティブ運営に必要なインフラ環境など、ビジネスのしやすさという点でメリットが大きい。今回は、キャプティブ設立のプロセスに焦点を当て、実際にラブアンでのキャプティブ立ち上げを支援している保険仲立人ジャパン・リスク・スペシャリスト(株)の荒木直義社長に、ラブアンでのキャプティブ設立の手順やポイント、ドミサイルとしての利便性などを聞いた。

### キャプティブのスキーム



荒木氏

キャプティブ保険会社を設置して自社のリスクを引き受ける場合、日本の保険事業免許を持つ元受保険会社と

設立前の準備段階では、キャプティブのスキームで保険契約を結ぶ元受保険会社を探し、契約内容を交渉することが重

### 準備段階での検討事項

キャプティブ保険会社は一般的に、親会社自身がリスクを引き受けるために設立する保険子会社を指し、設立目的は、リスクマネジメントの二環として企業内リスクの一元管理(見える化)や、自社が抱えるリスクに対応する補償商品がない場合のキャプティブ出再を前提としたカバー手段などが考えられるが、企業はそうしたリスクマネジメントの検討に入った段階で、企業保険に加入する保険会社の営業社員や代理店、保険仲立人などに相談する場合

「海外付保規制」によって、原則、海外の保険会社と直接保険契約を結ぶことができないことから、日本企業が海外のドミサイルにキャプティブ保険会社を設置して自社のリスクを引き受ける場合、日本の保険事業免許を持つ元受保険会社と

元受保険会社のスキーム参画の承諾を得て、より詳細なビジネスプランを作成して、いよいよ設立の準備に入っていくが、もう一つ重要な問題が残っている。オーナー企業全体でキャプティブ・スキームの導入に対する最終的な意思統一を図

キャプティブ設立の方向やスキームを定め、オーナー企業が最終的な意思決定を行ったら、いよいよ具体的な手続きに入ることに。ラブアンIBFCのホームページからキャプティブ・ビジネスに関するページを開くと「Licensing and Operational Requirements (ライセンスおよび運営の要件)」という表

キャプティブ設立の方向やスキームを定め、オーナー企業が最終的な意思決定を行ったら、いよいよ具体的な手続きに入ることに。ラブアンIBFCのホームページからキャプティブ・ビジネスに関するページを開くと「Licensing and Operational Requirements (ライセンスおよび運営の要件)」という表

キャプティブ設立の方向やスキームを定め、オーナー企業が最終的な意思決定を行ったら、いよいよ具体的な手続きに入ることに。ラブアンIBFCのホームページからキャプティブ・ビジネスに関するページを開くと「Licensing and Operational Requirements (ライセンスおよび運営の要件)」という表

キャプティブ設立の方向やスキームを定め、オーナー企業が最終的な意思決定を行ったら、いよいよ具体的な手続きに入ることに。ラブアンIBFCのホームページからキャプティブ・ビジネスに関するページを開くと「Licensing and Operational Requirements (ライセンスおよび運営の要件)」という表

いったん保険契約を結び、その保険会社から自社で保有するキャプティブ保険会社に再保険を出す(出再する)仕組みになる。

元受保険会社とキャプティブ、つまりオーナー企業グループでリスクを保有し合うということであり、その割合(出再割合)を決める必要がある。元受保険会社の選定や交渉は、オーナー企業が従来から保険加入している保険会社などに依頼する場合もあれば、保険仲立人などが行う場合もある。

元受保険会社のスキーム参画の承諾を得て、より詳細なビジネスプランを作成して、いよいよ設立の準備に入っていくが、もう一つ重要な問題が残っている。オーナー企業全体でキャプティブ・スキームの導入に対する最終的な意思統一を図

キャプティブ設立の方向やスキームを定め、オーナー企業が最終的な意思決定を行ったら、いよいよ具体的な手続きに入ることに。ラブアンIBFCのホームページからキャプティブ・ビジネスに関するページを開くと「Licensing and Operational Requirements (ライセンスおよび運営の要件)」という表

キャプティブ設立の方向やスキームを定め、オーナー企業が最終的な意思決定を行ったら、いよいよ具体的な手続きに入ることに。ラブアンIBFCのホームページからキャプティブ・ビジネスに関するページを開くと「Licensing and Operational Requirements (ライセンスおよび運営の要件)」という表

キャプティブ設立の方向やスキームを定め、オーナー企業が最終的な意思決定を行ったら、いよいよ具体的な手続きに入ることに。ラブアンIBFCのホームページからキャプティブ・ビジネスに関するページを開くと「Licensing and Operational Requirements (ライセンスおよび運営の要件)」という表

ことだ。荒木氏が企業にキャプティブの提案を行うと、相手担当者から「キャプティブ設立で最も手間がかかることは何ですか」とよく問われることがあるが、それに対しては「手続きなど実務的な設立準備よりも、御社内での最終的な方針決定に時間を要すかもしれない」と答えているという。日本企業には、欧米企業のようなリスクマネジャーといった専門的な役割を置いている会社は少なく、保険などについては総務や経理部門が担当することも多いが、そうした部門が中心となって経営層から現場まで新たなスキームの導入目的をあらためて明確にし、最終的なGOサインを出すことは、最も難しい問題といえるかもしれない。

1. 最低資本金(キャプティブの種類に応じて表示)
2. ラブアン国際保険協会の会員になること
3. ラブアンに保険ビジネスについて正確で専門的な知識を有するマネジメントチームが運営するマネジメントオフィスを設置するか、ラブアンでライセンスを持つアンダーライティング・マネジャーを指名すること
4. キャプティブ保険会社を経営する全ての取締役の任命には、ラブアン金融庁の事前承認を得ること
5. キャプティブ保険会社を経営する全ての取締役は、適切でふさわしい人でなければならず、信頼ある情報源からの不利な報告を受ける人物であってはならない

「現地での対応の良さ」  
キャプティブ設立を申請する企業は、設立に必要な書類をそろえるとともに、現地のマネジメント会社とキャプティブ運営に関する業務委託契約を結ぶ必要がある。契約を結んだマネジメント会社(キャプティブ・マネジャー)の業務は多岐にわたるが、元受保険会社からキャプティブに出再するスキームの場合、主に監督当局とのやりとりや必要書類の提出といった事務全般の支援になる。ジャパン・リスク・スペシャリストでは、以前、ラブアンでのキャプティブ設立を支援した際に日本企業に紹介したマネジメント会社と現在も取引を続けており、わざわざ現地で一から探す必要がない。

「審査を経て問題がなければ、程なくラブアンIBFCからキャプティブ設立の認可が通知される。会社設立と法人登記、銀行口座の開設と資本金の払い込みを行い、追加の設立関係書類を提出すると、晴れてキャプティブ保険会社として登録される。そこから新たなリスクマネジメントのスタートとなる。(今回は、2月に掲載予定です)」